

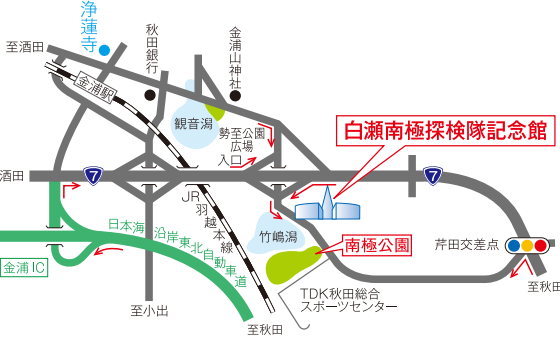
のぶ
白瀬 轟と南極探検隊のあゆみ

年号と白瀬轟の年令	
文久元年 (1861)	白瀬 轟、文久元年 (1861) 6月13日、秋田県由利郡金浦村に生まれる。幼名は、知教。
明治5年 (1872) 11歳	11歳の 轟は、近所の蘭学者佐々木節斎先生から「北極」の話を聞き、探検家を志す。
明治12年 (1879) 18歳	9月、僧職の道からはなれ、軍人になるため、日比谷の教導団騎兵科に入団。名を轟と改名。
明治26年 (1893) 32歳	将来の北極探検に備えて郡司成忠海軍大尉の「千島探検」に加わり、最北端の占守島で2年を過ごす。
明治43年 (1910) 49歳	7月、朝日新聞誌上で南極探検隊員募集広告が掲載され300名を超える応募者の中から、27名が決定。一同は血判して探検の成功を誓う。 11月29日、東郷平八郎元帥が命名した「開南丸」(204トン)で隊員、船員27名を乗せ、東京芝浦から南極に向けて出航。
明治44年 (1911) 50歳	2月8日、「開南丸」はニュージーランド・ウェリントンに寄港。11日、出港。3月14日、南緯74度16分、東経172度07分コールマン島付近で氷海に前進を阻まれ、上陸を断念。シドニーへ向かう。5月1日、シドニー到着。キャンプ生活に入る。 11月20日、「開南丸」シドニーを出港。 12月14日、アムンセン隊、南極点に到達。
明治45年 (1912) 51歳	1月16日、南極大陸初上陸。南緯78度17分、西経162度50分。「開南湾」と命名。ロス海ホエル湾に到着。アムンセン隊のフラム号と出会う。 1月17日、スコット隊、南極点に到達。(帰途、全員遭難死。) 1月20日、白瀬 轟、武田輝太郎、三井所清造、山辺安之助、花守信吉の突進隊5名が、犬ぞりで南極点に向かい出発。 1月28日、午前零時20分、南緯80度05分、西経156度37分に到達。日章旗を立て、一帯を「大和雪原(やまとゆきはら)」と命名。 6月20日、「開南丸」が延べ4万8000キロ、1年7ヵ月近くにわたる長旅を終え、一人の犠牲者も出さずに無事、芝浦に到着。歓迎式には5万人の熱狂的な市民が集まった。
  「開南丸」船上の隊員たち 大和雪原に日章旗を立てる	

The Shirase Antarctic Expedition Memorial Museum
白瀬南極探検隊記念館

〒018-0302 秋田県にかほ市黒川字岩潟15-3
TEL.0184-38-3765 FAX.0184-38-3762
公式ホームページ http://hyper.city.nikaho.akita.jp/shirase/

開館時間	9:00～17:00(入館は16:30まで)
休館日	毎週月曜日、年末・年始(12月29日～1月3日) (月曜日が国民の祝日の場合は、その次の平日)
入館料	●一般／ 300円 ●小中学生／ 200円 ●団体(20人以上)／通常の100円引き ●身体障がい者／無 料



浄運寺(白瀬 轟 生家) 当館より車で10分
白瀬 轟夫妻が晩年の一時期を過ごした 浄運寺の書院。当館裏手に移築(平成9年)



南極公園



はじめに
白瀬南極探検隊記念館は、
少年時代から極地探検を志し研鑽を重ねた
にかほ市出身の白瀬 轟と
彼の壮大な夢とロマンに共感した
三十人の男たちが明治末期
南極の白い大陸に繰り広げた
壮絶な人間ドラマを
記録した館である。



白瀬南極探検隊記念館は中央の円形の池に配置された円錐形の形態と、それをとり囲むように配置されたドーナツ形の形態によって構成されている。円錐形の形態は「冰山」を暗示するものであり、できるかぎり遠くからもランドマークとして見えるようにしたいと思った。純粹な幾何学上の形態は、「冰山」を表現するだけではなく、白瀬南極探検隊の厳しく、又崇高な偉業を示している。それをとり囲むドーナツ形の形態は、南極探検隊全員のチームワークを表現しているばかりではなく、太陽のまわりを巡っているわれわれの住む地球、太陽系の宇宙をも暗示している。エントランス・ロビーには、時の変化を示す窓が設置しており、そこから射し込んでくる光は、人々に時間の感覚を呼び起させるであろう。

建築家 黒川 紀章 (故人)

白瀬の夢が今なお受け継がれている！

✠ プロログゾーン

果てしなき夢を追い求めて南極探検に挑んだ白瀬矗。彼の足跡が、後の日本の南極観測へとつながっていきます。入口エントランスでは、南極昭和基地のライブ映像がお出迎え。日本の6時間遅れの現在の南極を実感！



白瀬と共に夢を追い求めた隊員たちの足跡をたどる。

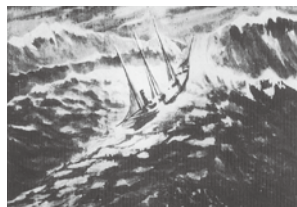
✠ 白瀬矗と南極探検隊ゾーン



このゾーンでは白瀬矗をはじめ、南極探検を夢見て運命を共にした隊員たちの足跡をふりかえります。さらに「開南丸」内部の復元や同時期に南極点をめざしたアムンセン、スコットなどの探検家たちによる命をかけた南極点到達レースの模様や、彼らが使用した帆船模型を展示しています。



探検に使用した開南丸の船尾と内部を忠実に再現



「南極に向かって航行中の開南丸」三宅幸彦隊員の墨絵

今まで知らなかった南極に関する情報・魅力が満載！

✠ 「白瀬の夢を継ぐ」ゾーン

白瀬の夢を継いで始められた日本の南極観測の歴史、そして現在の南極観測の状況や不思議大陸のあれこれを映像を交えて紹介。



探検と極地の情報コーナー

情報コーナーでは、白瀬矗と隊員たち、不思議大陸「南極」のあれこれ！クイズで答える驚き情報が盛り沢山！みんなでレッツ、チャレンジ！！

極点到達の雪上車を実物展示。運転席にも乗れるよ！

✠ 雪上車展示ゾーン

昭和43年(1968年)12月19日、村山雅美隊長(故人)率いる第9次越冬隊による極点旅行チームが日本人として初めて南極点に到達。その時に使用された大型雪上車「KD605」が当時の勇姿を残したまま公開。実際に雪上車に乗り込み、南極探検の気分を満喫できます。



南極点到達に使用された雪上車「KD605」
2014年機械遺産認定！運転席に座ってみよう！

4次元デジタル地球儀

》》 ダジック・アース

ダジック・アースとは、地球や惑星などの宇宙科学を、実際に目の前に立体的な4次元地球儀をつかって表示する手法です。白瀬南極探検隊が挑んだ南極は地球上ではどこに位置しているのか、またどのような気候であるのかを立体的に観察することができます。そのほかにも、月や木星などもくるくる回して、普段見ることができない部分を観察してみましょう。



ビデオカメラ・小型ビデオカメラ内蔵

ペンギンたちはどういう行動を？

》》 ペンギン撮影映像

国立極地研究所では、世界初となる野生ペンギンの背中にビデオカメラを取り付けペンギンの行動を観察しています。ペンギンが潜水しているときに動画が撮影できるようビデオロガーという直径21mm、長さ80mmの耐圧ケースに小型ビデオカメラを収納したものを使い撮影しています。ペンギンが集団でどういう行動をしているか、どんな餌をどのくらい食べているかなど、いろいろな情報を得ることができます。

》》 売店コーナー

白瀬記念館オリジナルグッズや、ペンギン、アザラシなど、かわいいぬいぐるみがたくさん。



》》 船模型展示

白瀬隊の「開南丸」と「宗谷」から「新しらせ」まで、歴代の南極観測船を展示。

世界初！南極と北極のオーロラを同時上映

》》 オーロラドーム

南極と北極で撮影された美しいオーロラ映像が世界で初めての同時上映。皆さまを未知とロマンの世界へ誘います。



南極探検の歴史や南極観測船新しらせ、南極観測の活動、そして南極の自然・生物なども同時上映しています。



崇高な偉業が甦る、探検と極地の総合ミュージアム